

二酸化硫黄の測定結果(平成16年度)

大気中の二酸化硫黄は、大気汚染物質の中でも代表的な物質であります。主として重油等石油系燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するもので、その主な発生源は、工場・事業場のばい煙発生施設です。

平成16年度に、二酸化硫黄について17測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、これらを平成15年度と比較すると、全般的に横ばいの傾向にあります。

年平均値は、岐阜南部測定局の 0.007ppm が最も高く、乗鞍測定局の 0.001ppm が最も低い状況にありました。

なお、環境基準はすべての測定局で達成していました。

平成16年度二酸化硫黄測定結果

地域	測定局名	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	年平均値(ppm)	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値(ppm)	日平均値の2%除外値(ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否	平成15年度	
					時間	%	日	%					年平均値(ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	356	8562	0.005	0	0.0	0	0.0	0.042	0.012	無	○	0.009	○
	岐阜南部	358	8617	0.007	0	0.0	0	0.0	0.048	0.015	無	○	0.006	○
	岐阜北部	363	8699	0.004	0	0.0	0	0.0	0.037	0.011	無	○	0.004	○

	各務原	362	8698	0.005	0	0.0	0	0.0	0.039	0.010	無	○	0.006	○
	羽島	365	8750	0.004	0	0.0	0	0.0	0.022	0.010	無	○	0.006	○
	平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
西濃	大垣中央	362	8702	0.006	0	0.0	0	0.0	0.039	0.012	無	○	0.008	○
	大垣南部	362	8680	0.007	0	0.0	0	0.0	0.047	0.015	無	○	0.010	○
	大垣西部	355	8611	0.005	0	0.0	0	0.0	0.034	0.010	無	○	0.005	○
	平均	/	/	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	0.008	/
中濃	美濃加茂	351	8439	0.004	0	0.0	0	0.0	0.039	0.009	無	○	0.005	○
東濃	土岐	359	8634	0.004	0	0.0	0	0.0	0.032	0.008	無	○	0.005	○
	瑞浪	339	8157	0.004	0	0.0	0	0.0	0.028	0.007	無	○	0.005	○
	笠原	365	8736	0.006	0	0.0	0	0.0	0.032	0.011	無	○	0.007	○
	中津川	358	8616	0.007	1	0.0	0	0.0	0.104	0.015	無	○	0.009	○
	中津川柳	365	8723	0.007	0	0.0	0	0.0	0.085	0.014	無	○	0.007	○

	中津川上金	362	8694	0.005	0	0.0	0	0.0	0.030	0.008	無	○	0.004	○
	平均	/	/	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
	高山	363	8701	0.003	0	0.0	0	0.0	0.014	0.006	無	○	0.004	○
飛驒	乗鞍	321	7739	0.001	0	0.0	0	0.0	0.086	0.005	無	非適用	/	/
	平均	/	/	0.002	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
県平均		/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/

備考)

1 県地球環境課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間 6,000 時間以上あり、日平均値が 0.04ppm を超えた日が2日以上連続せず、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日数が年間を通じて2%以下であることを示す。

3 「長期的評価の適否」欄の「－」は、年間の測定時間が 6,000 時間に満たないことを示す。

○過去 10 年間の経年変化

二酸化硫黄の年平均値の経年変化(年平均値)

